

防災おやまだ

小山田地区防災連絡協議会 平成19年3月15日発行 第2号



危険箇所を地図上に押さえてゆく



情報の収集手段を話し合う



グループのまとめを全員に発表

災害に備えて

小山田地区防災連絡協議会

会長 萩 伸元

私たちはどうして、毎年きまつたように「防災訓練」をするのでしょうか。それは自分の命は自分で守るためでもあり、日頃やっていたら災害のときに大きくものを言う、からです。

わが国は、地震や台風、豪雨などの自然災害に見舞われやすい環境にあります。このような災害に備え各町では、自治会で自主防災隊が結成されていますが、ひとつの町だけでは対処しきれない災害に対応しなければなりません。自分たちの町は自分たちで守るという基本理念に立ちコミュニケーションを図り、地区民の連帯感を高めると共に組織力を強化する必要から、各種団体のご協力で小山田地区防災連絡協議会を昨年7月19日設立させていただきました。

今後は5カ年の事業計画を基に、市からの地区防災組織活動補助金を有効に活用し進めて参ります。このほか、トランシーバーの配置、要援護者名簿の作成、「防災おやまだ」の発行で初年度を締めくくります。

19年度はわかりやすく役立つ防災訓練のほか、先進地の研修や講演会などみなさんの声をお聞きして、世代を超えた住民の顔が見える地域づくりを兼ねた訓練に取り組みます。安心して住める、明るく楽しい小山田を目指し、官民が一丸となって役員一同がんばりますので、どうか温かいご指導と力強いご協力を賜りますようお願いする次第です。

—活動と取り組み—

六名町の自主防災隊

六名町は、1級河川内部川（天井川）左岸に位置し、尚且つ狭隘道路のみの極めて交通の便の悪い災害対応には非常に弱い町であります。災害から自分の安全、命・財産は、自分で守るという強い意志と併せて民相互の助け合いが、地域の被害や損害を最小限に食い止める最善策であると言われております。地区集合防災訓練とは別に町内独自の防災訓練を数年前から実施（水防訓練は積み土囊のみ）、災害弱者を除く健康な方全員の訓練への参加を呼び掛けております。訓練の特徴は、普段在宅の可能性が高い女性、高齢者の方が中心となつて消火活動が出来るよう訓練を行つております。

今年度市の補助金を受けて防災



地区が一丸となった消火訓練

倉庫の充実を図り倉庫の完成を契機に防災に対する住民の尚一層の関心・意識の高揚が期待できます。

和無田町の自主防災隊

現在、和無田町の防災活動は火災を主目的に、消火ポンプ、消火栓の定期点検を行つています。又年末の特別警戒を実施しています。小山田地区の防災組織の発足にともない、和無田町におきましても「地震等の大規模な災害意識の高揚と、災害発生時の被害を最小限に防ぐ」を目的に自主防災隊の充実、再整備を行う予定です。

美里町の自主防災隊

美里町は地区に河川が無く、水の心配をしなくて良かったことや、住宅が分散している為、火災・地震についても隣家への影響の心配が少なかったことが、今まで防災についての関心がうすかった原因ではないかと思ひます。

しかし昨年的小山田地区防災連絡協議会設立を機会に美里町も自主防災隊の組織作りを準備しています。戸数（人口）の少ない地区なので、自治会全員が隊員として活動してもらう予定です。

町としての防災訓練はまだしていませんが、避難場所の確認、災害マニュアル等を作成し、機会のある毎に防災意識を高めて、装備も市の補助を利用し少しずつ充実させて、小山田防災合同訓練には少しでも多く参加できる様にと思っています。

小山町の自主防災隊

小山町の防災意識はまだまだ強く感じられません。そのなかで、自治会としまして、町内の防災意識の向上を高めるために、3年前から町内各所の消火栓の場所に、ホース格納箱を設置してきました。その中身は（ホース20m×3本、ノズル、開閉ハンドル）を装備しています。今までに10箇所設置する事ができました。残り3箇所です。この3箇所も新年度で設置をする予定です。それとこの消火栓の使用についても2年前から、小山田分団の協力を得て、放水訓練を2回行いました。この訓練については、今後も続けていく計画です。また、災害時の避難場所として、公会所、グラウンドがありますが、今回、公会所の修理、設備の強化、町内放送設備の設置など行つております。今後の課題としては、この施設の有効利用、また防災意識の向上を求め、地域での勉強会、講演会、訓練などを通じ、もしもの時に機能する防災組織を作つていくことです。

鹿間町の自主防災隊

鹿間町民の尊い人命と、財産を守るための自主防災隊は以前からあり、地道に活動をしてきました。岸本久義隊長以下十七名で組織する隊員は、整然として迫力があり、地区の防災訓練でもひととき目だっています。

今までの事件では、火事現場の見張りや行方不明者の発見に協力、大きく貢献してきました。しかし残念なことに、文書化した規約はありませんでした。今回、小山田地区連合自治会が地区防災連絡協議会を設立するため、各町へ規約提出依頼を機に、隊員が話し合い、第一条から十四条までの規約を制定しました。

新年度予算に六万円を計上、機能を充分発揮できるよう、体制づくりを充実させます。すでに災害時に備えた「緊急連絡網」を確立していつでも出動の手はずは万全です。

第一回の防災会議では五月十四日、集落センターで、市防災対策課の職員を講師に「災害から命を守るために」を研修し隊員の心意気をしっかりと学びました。

これからは、災害発生時、ひとり暮らし、高齢者の救出や情報伝達などをさらに研究し、安心して住める鹿間町にするため全力で取り組みます。

私たちのまちの自主防災



女性も多く参加して消防団員による防火訓練

山田町の自主防災隊

と痛感し、今後の課題となつていま

わが町の自主防災隊は、山田町の東、西地区2部隊総勢32名で構成されています。住民代表の組長、自治会役員で組織化しており、隊長、情報班、消火班、救出救護班、避難誘導班でそれぞれの役割を果たしております。18年度の活動内容は、放水訓練を6月に2回実施しました。山田町の住民70名ほどの参加協力を得ることができました。小山田消防団の指導のもと、大声で指差呼称し、全員が消火栓とホースの接続方法、ホース延長、放水ノズルを持ち安全な姿勢で消火を行うなど訓練を実施しました。

非常事態が発生しても、隣人同士が連携し、多くの方が対応できるように訓練の積み重ねが大切だ

す。また、小山田消防団と自治会役員とで、消火ホース格納庫の増設など総点検を行っております。今後も地域住民同士で助け合う体制を続けていけるよう定期的に訓練を行い、一人でも多くの人に参加していただくことを目標に継続していきます。

堂ヶ山町の自主防災隊

皆さんの町では、防災組織をどのような人選で選んでいますか？ 私たち堂ヶ山町では毎年、組周りで伊勢まいりを行う伊勢講という行事があります。七つの組で順番に伊勢まいりを行います。その組が今まで防災を担当して来ました。消火栓の場所の位置とかホースの有無や消火器の有効期限などの確認を行ってまいりました。今回自主防災隊を作るにあたり、自治会の役員および伊勢講の組と婦人会の役員で組織しました。今後大きな地震が起こることも予想され、異常気象による風水害が起こる確率も増えてまいりました。自主防災も重要になってくることだと思います。災害は未然に防ぐ事はできませんので、いかに被害を少なくするように、みなさんで考えていきましょう。

西山町の自主防災隊

西山町自主防災隊は平成3年に作られ現在に至っています。今回、市行政の依頼もあり18年度自治会が中心で新しく町一本自主防災隊組織をつくり、第一回自主防災訓練を十月に実施しました。西山町自主防災隊や地区消防団をはじめ、地域の皆様と一体となって訓練が行なわれました。特に女性の参加が非常に喜ばしいことでした。事業としては防災倉庫を新設、防災用具の購入、避難場所の確認、また女性部が新しくでき、19年度からは、自主防災隊と女性部中心に、町一体となって防災に備えたいと思います。



女性部を中心に町一体の防災講習会

内山町の自主防災隊

昭和30年頃まで消防団や警防団の人が、一軒一軒煙突掃除に回ってきました。また正月頃には、手動式の消防ポンプを引っ張り出して、出初式をしていたことを記憶しています。その後に自主防災隊ができて「内山町は自分たちで守る」をモットーに活動していたが、世の中平穏であったのか、いつの間にか自然消滅したように思われます。

最近になって、今にも大地震、巨大台風、局地的大雨などの大災害が発生すると言われています。実際、各地で大災害が発生している事から、平成18年に小山田地区防災連絡協議会が設立され、内山町も自主防災隊の再結成に向け検討を進めています。

また地区防災隊訓練への積極参加、町内での防災訓練などを計画しています。町内住民が、先輩からのモットーを受け継いで一致団結し、災害を最小限に食い止めるよう、第一歩を踏み出すところだと思います。



消防分団の活動

小山田消防分団は、現在「分団長 伊藤 忠夫」以下21名の団員で構成されています。
その活動は、大きな2つの柱から成り立っています。

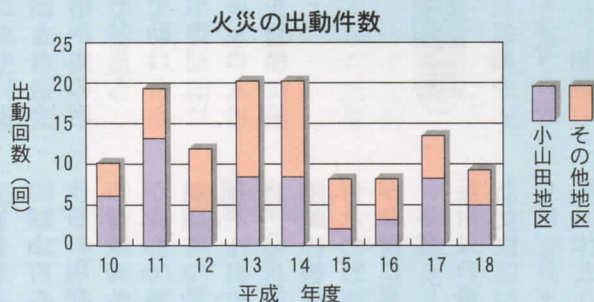
1 火災の消火活動

1つ目は、昼夜を選ばずサイレンの招集により、消防車で火災現場へ緊急出動する消火活動です。近年の火災出動件数は別表の通りとなっています。

近年、小山田地区の大火は少なかったのですが、平成17年7月の内山町の家屋火災では痛ましい犠牲者が出ています。また平成18年2月の山田町の家屋全焼も記憶に新しいところです。火災は、人命・財産をなくす本当に恐ろしいものです。

火災に対して消火活動は当然ですが、消防車到着までの初期消火も火災の拡大防止のために非常に大切なことです。それには近隣住民の協力が必要です。分団では、地区に設置されている消火栓・消火ホースの取り扱い指導も行っています。

それ以上に大切なことは、地区内の皆様方も大切な生命・財産を守るため、日頃から防火の意識を持ち、火災を起こさないように、次の「住宅防火 命を守る7つのポイント」に心掛けて下さい。



3つの習慣

- ① 寝タバコは、絶対やめる。
- ② ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- ① 就寝中の逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報機**を設置する。消防法・四日市市条例により、既存住宅は平成20年6月1日までに設置して下さい。但し、悪質な訪問販売には注意して下さい。

- ② 寝具やカーテンなどからの火災の拡大を防ぐために、**防火製品**を使用する。
- ③ 火災を早期に消すために、**住宅用の消火器**などを設置する。
- ④ お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。

2 応急手当・救命講習の普及

2つ目は、応急手当・救命講習の普及に努めています。特に、突然に心臓や呼吸が停止した時の心蘇生法は、新たに**AED**（＝自動体外式除細動器、俗に言う電気ショック）との組み合わせにより、今まで以上に簡素化され、救命の確立が高くなりました。

しかし、救急車が来るまで、手をこまねいていては、助かる命も助けられないことになります。そこで、そばにいる人の救命処置が必要になります。そのためには、心肺蘇生法は、聞く・見るだけでなく、実地に訓練・体験し会得しておくことが大切です。

分団員は既に指導員講習を受けていますので、地区内への普及のため、要請をいただければいつでも指導に出向きます。

3 その他の活動

定期的な活動として、消防車・無線通信設備の点検、消火栓・防火用水の点検、火災予防週間行事、訓練等で地区内にお邪魔することもあります。その節は、活動に理解をいただき、ご協力をお願いいたします。



消防分団の活動は、阪神大震災以降特に地域と密接した活動が求められており、地域住民との連携ならびに予防に力を注いでいく方針です。

現在、小山田分団員は最高齢70歳を筆頭に平均年齢48歳で、四日市市の中でも1、2を争う高齢者分団です。地域と密接した活動を進めていくためにも、活力のある若者の力を必要としていますので、若者の入団を心から願っています。